

★米国との米軍地位協定（VFA）破棄を支持する＝ウォルデン・ベロ

フィリピン政府は2月11日、米国と結んでいる「訪問米軍に関する地位協定（VFA）」の破棄を米国に通告したと発表した。フィリピンは1991年に米軍のクラーク空軍、スービック海軍基地を撤去したのち、1998年にVFAを締結、これにもとづき訪問米軍との合同軍事演習を行っていた。以下はこの動きについてのフィリピンの評論家ベロ氏の論考。

私は（麻薬取り締まりで数千人の死者をだしている）ドゥテルテ大統領を大量殺人犯と考えているが、米国と結んでいる「訪問米軍に関する地位協定（VFA）」および防衛協力強化協定（EDCA）を終了するという彼の動きを支持する。彼は悪魔の化身かもしれないが、その動機について口論する気はない。

型にはまった反米主義がまた始まったと言う人もいるだろう。しかし実際のところ、これら2つの協定は、この国の国家元首が下した最も無責任な外交政策決定だった（VFAはジョセフ・エストラダ大統領、EDCAはベニグノ・アキノⅢ大統領が締結）。実は、私が2015年にアキノ（政権を）を見限り、国会議員を辞任した理由の1つは、彼が私たちをEDCAの罠に陥れようとする米国の圧力に屈したからだった。

VFAは米国がスービック海軍基地とクラーク空軍基地を放棄したほぼ10年後に発効した。それは米国が、1990年代後半にクリントン政権下で中国を「戦略的パートナー」と位置づけていたのを、2000年代初期のジョージW.ブッシュ政権下で「戦略的ライバル」に変えたことを反映したものだ。

ペンタゴン（米国防総省）はなぜ考えを変えたのか。1996年の台湾海峡危機の際に米国が2つの空母打撃軍を派遣して中国に脅しをかけたとき、中国は沿岸の都市の産業インフラが米国の攻撃にいかに弱いかを認識した。このことから（中国は）東部と南東部の長い海岸線と東シナ海および南シナ海のみ사일防衛体制の改善を推し進めた。

これにより中国の対艦・対み사일防衛壁（A2 / AD）は改善された。これにたいしペンタゴンはその後数年間にわたって、（中国の防衛壁を）打ち破る攻撃能力の向上を行った。その結果うちたてられたのが、中国に照準をあわせた「エア・シー・バトル」戦略という戦闘ドクトリンだ。「エア・シー・バトル」の最も重要な細部の説明によれば、目的は「中国のA2 / AD防衛を打ち破

ること」である。そうしないと米政権が60年にわたって死活的安全保障上の利害をもつと宣言してきた地域から事実上締め出されてしまうからだ。そしてエア・シー戦略理論の鍵は、中国の沿岸と島の防衛を打ち破る米空軍と海軍に火力と兵站支援を提供するためフィリピンの基地を獲得することだった。

2014年にオバマ政権との間で締結されたEDCAは、まさにワシントンへの贈り物だった。これにより米国は、名目上はフィリピンの基地に、軍隊と戦争資材を置く軍事基地を設置することができるようになったのだ。そして米国は家賃を払わずにこれらの基地を持つことができた—この点こそ1990-91年の基地再交渉が行き詰まった原因だった

しかし心配なのは、私たちが主権の大きな譲歩をただけでなく、地政学のおよび地理的に、すべての世界で最悪の事態に巻き込まれたことだ。この基地は、米国が中国の沿岸と西フィリピン海（南シナ海）にある中国のA2 / AD防衛を打ち破る攻撃をかける際の踏み台の1つに使われる。同時に紛争時にはこれらの基地は（中国の）中距離ミサイルの射程内にはいるだろう。アキノ大統領は、正式な同盟なしに中国に対する危険な軍事同盟に私たちを引き入れてしまったのだ。

私たちは愚かにも、アメリカ側の暴走武具と戦略レースに吸い込まれてしまった。私が当時、アキノ大統領のアドバイザーたちに指摘したように、西フィリピン海（南シナ海）の島を横取りする中国に対抗するうえで我々の法のおよび道徳的な根拠がEDCAによって弱められてしまった。

トランプ政権とドゥテルテ政権の下で、フィリピンの状況は悪化している。トランプ大統領は（ロシアとの）中距離核戦力全廃条約（INF）を破棄し、エスパー国防長官は、西太平洋に中国向けの中距離核ミサイルを配備することを明らかにした。フィリピンの基地がこれらの兵器システムの配備先として役立つと考えられていることはありえないことではない。

ドゥテルテ大統領の側は、言葉の上では米国を痛烈に非難しているが、これまでのところ国内での米軍と米軍物資の流れを止めるようなことはまったくしていない。戦略的な感覚がまったく欠けていた前任者のアキノ大統領が（米軍に）与えた行動の自由を制限しない限り、米国はドゥテルテ大統領の悪口を我慢するだろう。

だからイエスだ。私はドゥテルテ大統領が表明した VFA からの撤退の意思を支持する。そしてさらに脱退のなかに EDCA と役に立たない冷戦の遺物である相互防衛条約をも含めるよう促したい。大きな問題はこうだ。彼は意志を貫いて、将軍たちと彼らの本当のボスであるペンタゴンの両方に公然と反抗するだろうか。私が言ったように、この男は大量殺人犯であり、私は彼による人権侵害の責任追及を続ける。しかし VFA と EDCA の終了については、彼を支持する。

(了)

ウォルデン・ベロ氏＝フィリピンの政治、経済評論家。2009 年から 2015 年まで連邦下院議員を務めた。その間、南シナ海を西フィリピン海に改名した下院決議を起草し、アキノ政権が米国との防衛協力強化に入ることに反対した。2015 年 3 月 20 日に議会史上、唯一記録されている「主義に基づく辞任」を行った。